

外来種におびやかされる固有種

侵略的外来種・グリーンアノール

多くの外来種は、ほかの地域に入ってきて、その地域の環境になじめずにいなくなってしまうのですが、なかには生き残って繁殖し、その地域の生態系に影響をあたえるものもあります。そのような外来種を、「侵略的外来種」といいます。

たとえば、アメリカ原産のグリーンアノール（有鱗目イグアナ科）は、ペットとして持ちこまれた、あるいはアメリカ軍が持ちこんだ貨物についてくるなどして、沖縄島南部や

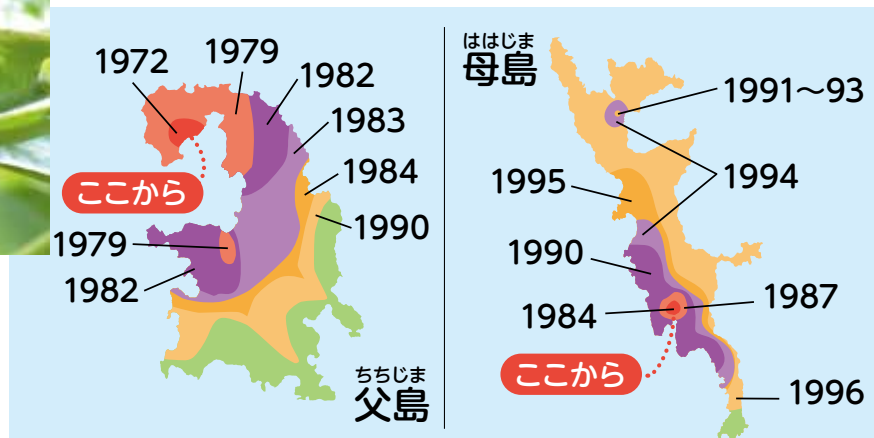
小笠原諸島に入ってきた侵略的外来種です。沖縄島では生息数が少ないのですが、小笠原諸島では1960年代に父島で発見されて以降、どんどん分布域を拡大し、今では父島、母島のほか、兄島にも生息しています。

グリーンアノールは、小笠原諸島にすむチョウやトンボ、ハチ、セミなどの昆虫を捕食したり、もともとすんでいたオガサワラトカゲの生息地をうばったりして、小笠原諸島の生態系に影響をあたえています。

父島・母島でのグリーンアノールの分布域のうっりかわり



グリーンアノール
(写真：環境省)



(環境省関東地方環境事務所資料より作成)

外来種を増やさないために

多くの外来種は、ペット用などで輸入されたものが逃げたり捨てられたりして、野生化することで、その土地に定着します。外来種を増やさないためには、輸入を制限することが大切です。

日本では2005年に外来生物法を施行し、

外来種のなかでも人間の健康や生態系などに害をおよぼす生き物を特定外来生物に指定し、飼育・栽培や輸入などを規制しました。それにより、多くの生き物の輸入量は減りましたが、国に届けずに輸入（密輸）するケースがあとを絶ちません。

自然が外来種を運んでくる？

ほかの地域に生息する生き物が、自力で飛んできたり、風に乗って運ばれたりといった自然要因の場合は、外来種とはよばれません。しかし、運ばれてきた地域の生態系に影響をあたえる可能性があることにちがいはありません。

たとえば、2011年の東日本大震災で津波に流され、太平洋をわたってアメリカ西部の沿岸に漂着したガレキなどを調べたところ、そのなかに日本の海洋生物が300種近くもくっついていたことがわかりました。

また、台風や地震などの自然災害によって、動物園や家庭で飼われている外来種の動物が、おりがこわれるなどして逃げて繁殖するといったこともあります。2004年の台風16号では、香川県のレジャー施設で、約

300羽の鳥類が逃げ出しました。このなかには、侵略的外来種のソウシチョウが100羽以上ふくまれていたことがわかっています。



ソウシチョウ (写真：PIXTA)

貨物についてくる外来種

ペットの輸入などのように、人が意図的に外来種を持ちこむケースばかりではありません。飛行機や船などで運ばれる貨物に、小さな動物や昆虫、植物の種、微生物などがくっついてくることがあります。近年では、南アメリカ原産のヒア

リが、中国などから来る貨物についてきて、問題になっています。ヒアリは毒をもっていて、刺されると焼けるような痛みを感じ、ときには命にかかわるようなアレルギー症状（アナフィラキシー・ショック）が出ることがあります。

column

鳥類

アカヒゲ



2020 年
VU



写真：中村利和

学名 *Larvivora komadori*

分類 スズメ目ヒタキ科

全長 約 14cm

分布 鹿児島県屋久島以南の島々、
長崎県男女群島（国の天然記念物）

どんな生き物？

頭から尾羽にかけて赤茶色をした小型の鳥です。オスは顔からむねにかけて黒く、ひげを生やしているように見えるので、この名前がついたといわれます。よくひびく美しい声で「ヒーヒヨヒヨヒヨ」などと鳴きます。

どんなくらしをしているの？

おもに森にすみ、地上を歩きながら昆虫やその幼虫、クモ、ミミズなどをつかまえて食べます。繁殖期には土手のくぼみや木の割れめなどに、枯れ葉やコケ類を組みあわせておわん型の巣をつくりま

外来種のマングースなどに捕食され、数が減っています。アカヒゲにはほかに、ホントウアカヒゲ、ウスアカヒゲがいますが、ウスアカヒゲは絶滅したと考えられています。

column

入れかわってしまった学名

アカヒゲの学名を見ると *komadori* となっています。コマドリは、夏になると日本にやってくるアカヒゲに似た鳥で、学名は *Larvivora akahige* です。むかし、ヨーロッパの学者が学名をつけるとき、日本から送られたアカヒゲとコマドリの標本のラベルが取れてしまったことで取りちがえ、学名が入れかわってしまいました。



コマドリ（写真：PIXTA）

鳥類

アマミヤマシギ



2020 年
VU



写真：戸塚 学

学名 *Scolopax mira*

分類 チドリ目シギ科

全長 約 36cm

分布 奄美大島と周辺の島々

どんな生き物？

奄美大島とその周辺の島々だけに生息するシギの仲間です。体はずんぐりとしていて尾羽が短く、全体に枯れ葉のような色をしています。飛ぶことはあまりうまくありません。

どんなくらしをしているの？

山地のうす暗い林のなかに、単独またはつがいで生活しています。夕方から夜にかけて活動が活発になり、長いくちばしで地面をつつきながら、土のなかにいるミミズや昆虫などをつかまえて食べます。

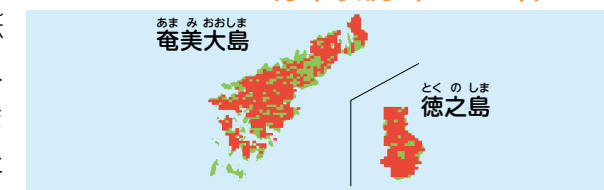
アマミヤマシギの目は頭の上のほうについています。地上で下を向いてえさをとっているときに、後ろから近づいてくる天敵をいち早く察知するのに役立ちます。

column

アマミヤマシギの数が減っている

アマミヤマシギは奄美大島周辺に生息していますが、数は減少していると考えられています。森林伐採による生息場所の縮小と、マングースやノネコに捕食されていることが、おもな原因です。また、月の明るい夜には林道に出て食べ物をさがすため、交通事故にあうこともあります。

アマミヤマシギの分布状況（2013 年）



（環境省奄美野生生物保護センターホームページより作成）

オガサワラシジミ

2020 年
CR

写真：尾園 暁

学名 *Celastrina ogasawaraensis*

分類 チョウ目シジミチョウ科

全長 約 16mm

分布 小笠原諸島（国の天然記念物）

どんな生き物？

小笠原諸島だけに生息するシジミチョウの仲間です。オスのほうがメスよりやや大きく、はねの表がオスはこい青色、メスはあい色をしています。

どんなくらしをしているの？

平地から山地の森林にすみ、オオバナセンダングサやシマザクラなどの花のみつを吸います。メスは、常緑樹のコブガシやオオバシマムラサキなどの花のつぼみに産卵します。

昆虫の幼虫が食べる植物を「食草」といいます。チョウは種類ごとに食草が決まっていますが、オガサワラシジミの幼虫は、季節によってさまざまな植物の花を食べます。

固有種のチョウ絶滅第1号？

オガサワラシジミは、グリーンアノールによる捕食などが原因で、父島では絶滅したと考えられ、母島でも2018年以降は生息が確認されていません。飼育下での繁殖の取り組みが行われていましたが、2020年8月にすべて死んでしまいました。今後、野生種が発見されなければ、固有種のチョウで最初の絶滅種となる可能性があります。

●オガサワラシジミの保全の取り組み

2005年	多摩動物公園（東京都）で飼育下での繁殖の取り組みを開始。
2016年	多摩動物公園内で交尾に成功。
2018年	母島での調査で発見されなくなる。
2019年	新宿御苑（東京都）で飼育下での繁殖開始。
2020年7月	新宿御苑の全個体が死亡。
2020年8月	多摩動物公園の全個体が死亡。

column

オガサワライトトンボ

2020 年
VU

写真：尾園 暁

学名 *Ischnura ezoin*

分類 トンボ目イトトンボ科

全長 32 ~ 37mm

分布 小笠原諸島（国の天然記念物）

どんな生き物？

小笠原諸島だけに生息するイトトンボの仲間で、オス、メスともに、むねとおなかの先が水色をしています。メスは、若いときはあざやかなオレンジ色をしています。

どんなくらしをしているの？

山地の谷川ぞいや、植物がよくしげる池や沼にすんでいます。メスは水面近くの植物に産卵します。幼虫（ヤゴ）は池や沼、流れのゆるやかな川で生活します。

イトトンボは名前のとおり、糸のように細長い体をしたトンボです。前ばねと後ろばねがほぼ同じ形をしていて、複眼が左右にはなれているのが特徴です。

絶滅が心配される小笠原諸島の固有トンボ

小笠原諸島にはほかに、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラトンボ、シマアカネの5種の固有トンボが生息しています。干ばつの影響による池や沼の減少、外来種のグリーンアノールによる捕食などが原因で数が減少し、父島では5種すべてが絶滅したと考えられています。

●小笠原諸島固有のトンボ類の現状

	父島	母島	兄島	西島	父島	母島	向島	姉島	妹島
オガサワライトトンボ	○	○	○	○	×	○	○	×	○
オガサワラアオイトトンボ	×	○	×	×	×	×	×	×	×
ハナダカトンボ	×	○	○	×	×	○	×	×	×
オガサワラトンボ	×	○	○	×	×	×	×	×	×
シマアカネ	○	○	○	○	×	×	×	×	○

(NPO 法人小笠原クラブ資料より作成)

column